

製本のススメ

Vol. 85

暑さ寒さも彼岸までと申しますが、暖くなるとは思えないような寒さが今年が続きますね。おまけに明るいニュースは聞きません。しぼんでいても何も解決しませんから開き直って働きましょう！明けない夜は無いのだ！（たぶん・・・）

今回は**見返し**の話し

並製本では、意外と出番の薄い【見返し】ですが、3月～4月頃は、見返し付の冊子が増える時期です。このススメでも、何度か見返しの話をしていますので、紙目が大切だ！という事くらいは、身についたでしょうか？

さて無線綴じでの見返しは、見栄えの豪華さがメインの役割ですが、**手帳・上製本では重要な部品の一つです**。本体の背中を表紙に接着しない製本方法であるものは**この見返し用紙が要です**。ここが壊れると、表紙と本体が離れてしまいますので、厚みの薄い用紙・和紙・しわの多い紙（例えば、しんだん紙）は、見返しとしては、不向きです。またミラーコートのように、水分に弱い用紙も不向きです。

さて、見返しには **もう一つ重要な仕事があります**。主には上製本の場合ですが**表紙の外反りを調整する役割が見返しです**。上製表紙は、まず芯紙に表紙の材料を貼ります、すると表側に反っていきます。これを真っ直ぐに（または少し内反りに）引き戻してくれるのが見返しなのです。時々ラッパのように表紙が外反りしている上製本を見たことはないでしょうか？それは、見返しの紙が薄く（弱く）芯紙を引ききれないか、紙目を間違えているかのいずれかです。しかし、厚ければ良いという訳でもありません。何事にも限度がありますので、カード紙のように厚みがあっては、冊子に使うのは乱暴ですね。

ではどの程度がよいのでしょうか？紙の種類にもよりますが、厚みであれば 0.15 ミリ～0.2 ミリ程度 例えば上質四六版ならば、110k～135k程度です。レザックは用紙が丈夫ですので、四六版 100kでも十分です。



Teabreak

まもなくひな祭りですね。1年の節目として五節供の一つですが、何で桃の節句なのかと調べてみました。もちろん、季節的なことありますが、古来中国では、桃の木が悪魔を払う神聖な木と考えられており、そこからひな祭りには桃を飾るようになったとか。そういえば、ファミリーレストランのバーミヤンも桃のマークだったと思いだしました。あれは魔除けなのではないでしょうか？

by (株) 井関製本